

つくしんぼ

平成26年
新年号 第167号
北里研究所病院だより



特集 北里研究所病院は「災害拠点病院」です…………… P2~3

目次

1. 災害に対応した各種設備	2. 防災訓練について	3. 北里研究所病院DMAT	
新年のご挨拶……………	P1	市民公開講座を開催しました……………	P4
「高齢者ケア(物忘れ)相談」を開始します……………	P4	乳がんセミナーを開催しました……………	P4
医療安全月間報告……………	P4	行事予定……………	P4
第7回糖尿病フェスティバル開催レポート……………	P4		

新年のご挨拶

病院長 土本 寛二



明けましておめでとうございます。昨年中、皆さまより当院に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。

本年、学校法人北里研究所は創立100周年を迎えました。この節目にあたり、創立者北里柴三郎先生が医学生時代(明治11年)に、医道について自分の信条を述べた演説草稿である「医道論^{*1}」や研究所創立時に意気込みを表した七言絶句の漢詩^{*2}(正面玄関に掲げてあります)、また北里先生の支援者であり、先生が師父とも仰いだ慶應義塾創立者福澤諭吉先生が当時の医学界に送った漢詩「贈医^{*3}」など、両先生の教えをあらためて肝に銘じ、北里先生の座右の銘である“終始一貫”医療の分野で社会に貢献できるよう努めてまいります。

さて、北里研究所病院は今年の5月に新病院開院から15年が経過します。開院時より病院理念“心ある医療”のもと“臨床(診療・予防)・教育・研究・危機管理”を基本方針として“患者さま中心のチーム医療”を掲げ運営しております。今後も病院理念を堅持し、皆さまに満足していただけるように努め、信頼され、そして選ばれる病院を目指してまいります。

また、当院の医療は4つの基本方針を実践し、社会や患者さまから求められる、アップデートでかつ高いレベルの標準医療を実践すると同時に、常に診療の質を維持、進歩させながら、独自性を活かした先進医療も推進することにあります。

基本となるセンター系医療(糖尿病、脊椎、人工関節、IBD、肝臓病、頭痛、乳がんなど)・専門外来は課題別医療チーム(緩和ケア、ICT、NSTチームなど)とともに、順調に進化を遂げていると自負しております。

新年にあたり来年度の事業について紹介させていただきます。

基礎研究・臨床研究や治験を行う総合的研究センターとして、昨年4月に立ち上げたBRC(バイオメディカルリサーチセンター)において、肝臓病センターおよび腫瘍センターとの連携で肝がんのがん免疫療法の臨床研究がスタートしております。今後は肺がん、肺がんにおいても臨床研究を行い、がん免疫療法分野における先進医療を目指していきます。

予防医学センターにおいては、検診事業に加え、病気の予知・予防を目指す事業を展開してまいります。また、つくし会企業をはじめとする多くの団体との連携によるメンタルヘルスセンターの設置なども計画しております。

最後に当院は北里研究所発祥の地、白金キャンパスにおいて、特色ある総合的な医療を推進してまいります。皆さまにとって更り多き一年になりますようお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



※1 医道論：「民衆ひとりひとりを健康に育てるのが私の志である。一生をかけてこれに立向かえば成し遂げられないことはない」
※2 七言絶句の漢詩：「奏功一世豈無時・奮闘由来吾所期・休説人間窮達事・苦辛克耐是男兒」
※3 贈医：「医学は神との限りない勝負である。神とたたかってまでも、病気の解明、治療に手段をつくせ」



平成11年に竣工した現在の病院棟は、平成7年に発生した阪神淡路大震災の教訓を受け、大規模地震にも耐えうる免震構造として建設されました。そのため、他の一般的な建物に比較して揺れに強く、倒壊の可能性も低いことから、東京都災害拠点病院として指定され、災害時には多くの被災者が訪れる事が想定されています。

当院では、今後予想されている南海地震などの大災害に備えて、インフラ整備、物流・備蓄品等の確保、患者搬送・受け入れ体制の構築など、総合的な災害対策に取り組んでいます。日々の訓練、災害計画の改善と強化が大きな課題であり、平時からの備えと、大規模災害を想定した実践的な防災訓練を定期的実施する事が重要であると考えています。今回は、当院の災害時の体制と設備・備蓄等と、今年度新たに編成された「災害派遣医療チーム=DMAT」についてご紹介します。

事務部総務課 荒井 孝



1. 災害に対応した各種設備

- ①免震構造：地上1階と地下1階との間に、積層ゴム85基と鋼棒ダンパー42基・鉛ダンパー12基の合計54基のダンパーを設置した大規模な免震構造。
- ②自家発電機：停電時に作動し、数日間の電源供給が可能。
- ③貯水槽：屋上階と地下2階に設置されており、断水時でも水の供給が可能。
- ④備蓄食料：約600人分×3日分の食料・飲料水を保有（平成25年度）。



①免震構造



④備蓄食料



②自家発電機

2. 防災訓練について



▲北里研究所 消防演習
▲1日消防署長を務める藤井理事長

毎年行っている防災訓練ですが、今年は10月と11月に2回実施しました。10月は、地震が原因で発生した火災を想定し、職員の避難と模擬患者の避難搬送の訓練を行いました。避難経路が限られた高層階（5～10階）からの患者避難搬送は、予想以上に困難で、改めて対策を講じる必要があることが分かりました。

11月は、高輪消防署の協力により、数多くの消防車両が白金キャンパスに集結しました。はしご車を用いた病棟からの救出、放水車からの放水をなど、本格的な演習と、起震車による地震体験、煙ハウスによる火災時を想定した煙体験など、被災の模擬体験が行われました。また、スーパーアンビュランスという日本に3台しかない大型救急車の展示も行われ、近隣の方々も見学に訪れていました。

この地域で、これだけ多くの消防隊員や消防車両が一同に会することは非常に稀な事であり、白金キャンパスでは、本物の災害現場さながらの雰囲気を経験することができました。



▲多くの消防車両が白金キャンパスに集結



▲はしご車を用いた病棟からの救出



3. 北里研究所病院DMAT



▲マンション・ビル倒壊時の訓練



▲車両脱線事故を想定した訓練

(1) DMATとは？

当院は、平成16年度から災害拠点病院の指定を受けておりますが、今年度の東京都災害拠点病院設置運営要綱等の改正に伴い、「災害派遣医療チーム（日本DMAT）」を編成する事となりました。DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義された災害派遣医療チームの事で、Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって「DMAT（ディーマット）」と呼ばれ、医師、看護師、業務調整員で構成されます。

早速、北研DMATの第1隊目として、5名のメンバーが任命され、平成25年8月14日から4日間、DMAT隊員養成研修を受けてきました。講義から、職種別に機器を用いた実技訓練など、あらゆる場面を想定した多種多様な内容に加え、8月の炎天下の中での訓練となり、極めてハードな内容でしたが、全員が無事に合格し、DMATの認定を受けることができました。

(2) DMATの主な活動内容

災害現場において、傷病者のトリアージや現場での応急処置や、消防・警察との連携を取り、病院への患者搬送等を行います。大規模災害時には被災地の病院支援や自衛隊の航空機を用いて患者の広域搬送なども行います。

当院周辺が被災地となった場合は、当院を含む近隣の災害拠点病院は、支援に駆けつけたDMATを受け入れて、連携を取りながら活動します。また、出動要請があった際は、DMAT隊員として被災地で災害支援活動を行います。その他、活動内容は多岐に渡り、状況により求められる内容も変化するため、適宜対応しなければなりません。しかし、DMAT隊員の認定こそ受けたものの、実際に被災地で活動する為には、まだまだ経験不足で、現場で活躍するためにはより多くの訓練を積む必要があります。

北研DMATも、近い将来に必ず災害支援活動を行う事になると思います。その時に迅速な出動ができるように、積極的に技能維持訓練やブロック訓練等に参加し、実践できる技術と知識を高め、有事の際に活動ができるよう日々精進してまいります。

【被災地へ派遣時】

- ◆被災地内での医療情報収集と伝達
- ◆災害現場でのトリアージ、応急処置、搬送等
- ◆被災地内の病院における診療の支援
- ◆近隣・域内搬送における消防ヘリ、救急車等の内での患者の監視、必要な処置

【広域医療搬送を実施時】

- ◆広域搬送拠点臨時医療施設（SCU）における患者安定化処置、搬送トリアージ等
- ◆広域医療搬送での航空機内における患者の監視、必要な処置

【所属病院近隣被災時】

- ◆災害支援活動に派遣されてきたDMATの受入と連携
- ◆広域医療搬送で送られてきた患者の受入
- ◆その他



▲左より(医師 小杉理恵、看護師 吉野直絵、深山千春、事務 荒井孝、薬剤師 小林義和)



「看護師による高齢者ケア（物忘れ）相談」を開始します

もの忘れの自覚が出て不安に感じている方や、認知症の診断後の生活や介護方法など、ご心配なことがございましたら、専門看護師がご相談をお受けしておりますので、お気軽にご利用ください。



相談日時 毎週火曜日
午前9時00分～午前12時00分（※予約制）

相談時間 初回相談60分、2回目以降は30分

料金 無料

相談対応者 老人看護専門看護師

問い合わせ窓口 1階総合案内
※ご通院中の方は、主治医にご相談ください。

医療安全月間報告

今年も、「医療安全月間」として、医療の安全に向けた様々な取り組みを11月に行ないました。職員の医療安全に対する理解や認識を深めることを目的として、医療安全に対する意識調査アンケートの実施や、勉強会を開催いたしました。

今後とも、患者さまが安心して医療サービスを受けただけのよう、日々努力して参ります。

医療安全標語 (平成24年度優秀賞)

- 事故防止 確認行動 日頃から
- 事故防止 意識の高い 環境作り

第7回糖尿病フェスティバル開催レポート

当院では、毎年11月14日の世界糖尿病デーに合わせて「糖尿病フェスティバル」を開催しており、今年で7回目を迎えました。昨年同様に、白金高輪駅の構内で実施し、108名もの方にご参加いただき、多くの方との交流の場となりました。また、糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動の一環で、当日は全国各地でブルーライトアップも行われました。



糖尿病センターでは、一人でも多くの方に糖尿病を知っていただくためにも、更なる啓発活動を続けてまいります。



平成24年の東京都庁ブルーライトアップ (東京都福祉保健局保健政策部健康推進課より提供)

市民公開講座を開催しました

10月27日に、「前立腺がん－検診から診断・治療まで－」をテーマに市民公開講座を開催いたしました。埼玉医科大学国際医療センター放射線腫瘍科鹿間直人教授をお迎えし、当院の泌尿器科スタッフと前立腺がんの検診・診断・治療について講演しました。当日は、薬学部の大学祭「白金祭」の催事としても実施され、85名の方にご参加いただきました。今年で3回目を迎える「がんに関する市民公開講座」は、患者さまや地域住民の方を対象に、がんに対する正しい医療情報を届ける啓発活動として今後も開催し、地域貢献を目指していきます。



乳がんセミナーを開催しました



11月2日に「知っておきたい、乳がんのこと～乳がんと向き合う～」をテーマに、当院プレストセンター主催のセミナーを開催しました。今回は、乳がんの基礎知識から検査や治療方法を詳しくご説明し、心の変化や生活の変化に対するサポートについて講演を行いました。

約70名の方々にご参加いただき、講演後には活発な質疑応答が行われました。これからも、プレストセンターは診療だけでなく、患者さまへの予防・啓発活動にも積極的に取り組んでまいります。



行事予定

<p>リビングウィルセミナー(有料)</p> <p>開催日 平成26年2月1日(土)</p> <p>時間 午前10時00分～午前12時00分</p> <p>場所 4階AB会議室</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6345 (予約センター)</p>	<p>眼瞼下垂説明会(無料)</p> <p>開催日 平成26年1月27日(月)</p> <p>時間 午前10時00分～午前11時30分</p> <p>場所 4階AB会議室</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6148 (美容医学)</p>	<p>がんに関する語り(無料)</p> <p>テーマ 「さまざまな苦痛の理解」</p> <p>開催日 平成26年1月18日(土)</p> <p>時間 午前10時00分～午前11時30分</p> <p>場所 4階AB会議室</p> <p>対象 当院を受診されているがん患者さまとご家族</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6345 (予約センター)</p>	<p>肝臓病教室(有料)</p> <p>開催日 平成26年1月18日(土)</p> <p>時間 午後1時30分～午後3時00分</p> <p>場所 3階予防医学センターラウンジ</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6345 (予約センター)</p>	<p>生活習慣病教室(無料)</p> <p>開催日 平成26年1月11日(土)</p> <p>時間 午前10時00分～午前11時30分</p> <p>場所 3階セミナー室</p> <p>申込方法 TEL 03-5791-6148 (予防医学センター)</p>
---	--	--	---	--

新任医師紹介

平成25年10月1日付



麻酔科
増田 祐也
(ますだ ゆうや)

退職医師紹介

平成25年9月30日付

婦人科 小室 優貴
総合内科 三好 徹

編集後記

明けましておめでとうございます。今年は9連休を過ごす方もいらっしゃるのではないのでしょうか。忘年会での暴飲暴食やクリスマスケーキの食べ過ぎに続き、お正月といえ、おせちにお雑煮と「食」の楽しみが満載で、9連休ともなればお正月太りが気になるどころ。太る原因と思われるがちなお餅ですが、実は、消化が良く、お餅を食べ過ぎてしまうこと自体が問題で、体をあまり動かさないことや食生活の乱れなども原因とも言われているそうです。お餅に限らず、食べ過ぎには注意をし、運動不足にならないよう体調管理を十分にすることが健康への第一歩ではないのでしょうか。北里研究所病院では、「生活習慣病予防教室」や「ロコモ教室」など健康づくりに向けた取り組みを定期的に開催しております。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。(新井)